

Light up! Brush up!

じ た そんちょう あか
自他を尊重し、まわりを明るくする

しゅたいてき まな つづ じぶん
主体的に学び続け、自分をみがく



発行者 今村 貴文

“厳しい”ではなく“誇り” 「100-1=0」の教訓

ぜん きこうはん はじ やく しゅうかん す せいと か なにげ かいわ なか
前期後半が始まり約3週間が過ぎました。生徒たちと交わす何気ない会話の中で、「いいなあ。すてきな
なあ。」という言葉がいくつもありましたので紹介します(Tは先生、Sは生徒)。

T:「もうすぐ期末テストだけど、どう?」

S:「ゲームとか遊ぶのをがまんして勉強したので、今回の期末テストは少し自信あります。」

T:「期末テスト、お疲れさまでした。どう?」

S:「今日はゆっくり休んで、テストが返ってきたら、やり直しががんばります。」

T:「駅伝練習、朝7時からだけど、遅れないで練習に来て、すごいね。」

S:「夜10時には眠るようにしているので、早起きは大丈夫です。」

T:「明日から3連休だけど、予定はあるの?」

S:「試合があるので緊張しそうです。でもがんばります。」 S:「塾があります。」

七城中の生徒たちに話しかけると、みんな笑顔で言葉を返してくれるので、その笑顔に元気をたくさんもらっています。もっと笑顔たくさん、元気いっぱい七城中にするために、次の問いかけに対し、自分の言動を振り返ってみましょう。

●朝8時00分までに登校していますか(生徒玄関に入っていますか)。

●授業開始2分前には入室し、1分前には着席して準備していますか。

●朝読書のとき、ちゃんと読書していますか。

●自転車に乗るとき、ヘルメットとタスキはしっかり着用していますか。

●服装や髪形は、規定を守っていますか。乱れていませんか。

●人を笑顔にする、元気にする言葉づかいや行動をしていますか。

さて、ここで、最近、私(今村)が読んだ本の中から、「これは伝えたい」と思った、ある数式を紹介し
ます。100-1は? そう、99ですね。でも、1890年に誕生した帝国ホテルでは、「100-1=0」という数式
が、仕事をする上での教訓になっています。ドア係、フロント係、荷物係、客室清掃係、料理係など、ホテル
内ではたくさんの方が一人一人役割をもって働いています。「100-1=0」という式には、ホテルで働く人
のどれか一人でも手を抜いたり、何か一つでもミスをしたりしたらゼロ、つまり「ホテル全体の評価が0点」
という意味があります。「それは厳しいなあ」と思う人もいるでしょうが、帝国ホテルで働く人たちは全員、
「100-1=0」という教訓が厳しいからこそ、逆に大きな誇りを持ち、「マイナス1を出さず、
今日も100点」を実現しているそうです。

私は、この数式を知り、「『少しぐらいいいだろう』『あいつもしてるからいいだろう』と自分を甘やかすと、
どんどんマイナスが増えていくので、自分に厳しくあり、誇りをもって生きていきたい。」と強く思いました。



菊池つ子60運動講演会「睡眠の量・質・リズム
が整うと子どもはもっと輝く!」(筑紫女学園大
学 大西良先生)の講演を真剣に聴く生徒



4月から続けている靴をそろえる習慣。
みんなの心がそろって、美しいですね。

七城中
HP
二次元コード

